

となん歴民だより

れきみん

vol. 85

令和 8 年 6 月 30 日発行

盛岡市都南歴史民俗資料館

都南歴史民俗資料館をご利用ください！

活用方法はいろいろ。ご相談ください。(☎638-7228)



イケメンのカモシカがお出迎え

当資料館は、昭和 54 年 8 月に開館し、今年で 47 年になります。盛岡市を中心とした貴重な民具、信仰資料、歴史資料等の文化財を収蔵し展示公開しています。館内の見学だけでなく、いろいろな活用ができますので、地域の皆さんに大いに活用してほしいと思います。

図書や収蔵資料の貸し出し

収蔵資料の貸し出しをしています。「こんな資料を借りたい」というものがあればご相談ください。また当館には約1,000冊余りの図書があります。これらは1か月間の期間で貸し出しをしていますのでご利用ください。



当館の書架

出前講座・出前授業

職員が施設や学校等へ出向き、スライドや実物等を使って歴史や民俗に関わる講話をします。小学校からは「昔の道具について」、一般の団体からは「地域の歴史について」の講話のご要望が多いです。



青山小学校
出前授業

周辺の散策

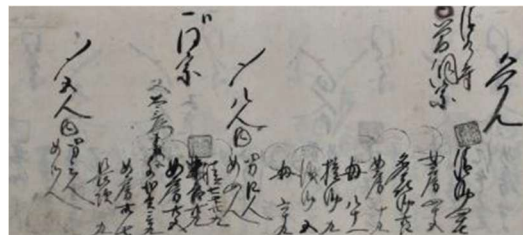
当資料館は「都南つどいの森」の中にあります。周辺は自然が豊かで、季節ごとの山野草や野鳥類を楽しむことができます。見学ついでにぜひ森を散策して心身ともにリフレッシュしてください。



7月になるとヤマユリが
甘い芳香を放ちながら咲
き乱れます。

生涯学習のお手伝い

「先祖について調べたい」「地域の神社について調べたい」等の相談で来館される方もいらっしゃいます。できる限りお手伝いしたいと思います。古文書類にヒントがある場合もありますので、ご相談ください。



「宗門人改書上帳」(慶応元年)

★ 検索してみてください！

盛岡市の公式ホームページから「都南歴史民俗資料館」で検索すると右のような画面が出てきます。そこから当館の様々な情報に触れることができます。「となん歴民だより」のバックナンバーも見られます。



～人気の収蔵品～



当館人気 No1 の遮光器土偶
(複製) 都南支所にもあり



子どもたちに人気の
磁石式電話機

はか う おしょう となんの民話さんぽ 13 お墓から生まれた和尚さん

都南の民話と、
民話にまつわる史跡
などをご紹介します

今から 500 年ほど前、宮古の千徳に熱心な仏教徒の夫婦がいました。ところが、夫は伝染病で亡くなり、身ごもっていた妻のお花がひとり残されてしまいました。お花は夫の供養のため一層信仰に励み、仏さまを拝んでいましたが、風邪で亡くなってしまいました。村人はお花を憐れみ、華厳院という寺の山の墓地に埋めました。

翌日、隣村の老人が山の墓地を通ると、たくさんの花が供えられた新しい墓があることに気づきました。念仏を唱え拝んでいると、土の中から赤ん坊の泣き声が聞こえました。老人は驚いて寺の和尚さんと呼び、駆けつけた人々とともにお墓を掘ってみると、お花のなきがらに抱かれた赤ん坊がいました。赤ん坊をひろいあげ、和尚さんに手渡すと泣き出してしまい、老人に渡るとぴたりと泣き止んだため、老人が育てることになりました。

山で生まれたことから「山助」と名付けられた赤ん坊は、7 歳になるまで老人のもとで育ち、その後は和尚さんに預けられました。13 歳のとき、和尚さんと老人は山助と呼び、生い立ちを詳しく説明しました。山助は涙を流し、育ててくれた皆の恩に報いるため、また両親の供養のため、それから一生懸命に学びました。

やがて、20 歳になった山助は立派な和尚さんとなり、托鉢を受けながら各地を歩き仏の教えを広めました。紫雲たなびく飯岡山を訪ねたところ、仏像に似た奇石を見つけ、ここが坂上田村麻呂や慈覚大師の霊場であることを知り、この飯岡の地にお寺を開き仏の教えを広めることを決心しました。

お墓から生まれた和尚さんは、長善寺を開いた山月和尚その人で、一生を仏の道につかえて大永 6（1526）年 2 月に亡くなりました。

出典:『となんの民話』（都南歴史民俗資料館、1988）。

ゆかりの地 飯嶋山長善寺

曹洞宗の寺院で、本尊は釈迦牟尼仏。開山は宮古市花原市華厳院 2 代目の山月秀閑大和尚、開基は飯岡館の城主飯岡平九郎。鈴木八郎兵衛昌紹の銘がある鋳銅製半鐘は盛岡市指定有形文化財に指定されている。



盛岡市上飯岡 15 地割 2
県交通「二又」下車徒歩 17 分

展示室から ～展示資料紹介～

都南歴史民俗資料館では、「昔の教科書」をテーマに展示替えしました。今回は明治初期以前まで寺子屋などで用いられた学習書を展示しています。これらは、文字や文章を学ぶ手段として手紙（往来）の例文をテキストとして用いたことから「往来物」と呼ばれますが、手紙文以外にも実用的な書物（農業往来など）やさまざまな工夫がされたもの（歌、絵入り）がみられ、実に多彩です。



← おののたかむらうたじづくし
小野篁歌字尽

はるつばき、なつはえのきにあきひさぎ、ふゆはひ(い)らぎにおなじくはきり
木偏に春で「椿（つばき）」、夏は「榎（えのき）」…と、
漢字の覚え方を和歌（五七五七七）にのせています。
本資料は文政 4 年（1821）に江戸の鶴屋喜右衛門が出版したものです。

ごりょうぶんごうづくし
御領分郷尽(部分) →

往来物の一種で、盛岡藩領 618 か村の名前が列記されています。本資料は、嘉永 3 年（1850）に見前村の人が書き写したものです。



となん歴民だより vol. 85
令和 8 年 6 月 30 日
盛岡市都南歴史民俗資料館 発行

岩手県盛岡市湯沢 1-1-38（都南つどいの森の中にあります）
TEL/FAX 019-638-7228
時間 9：00～16：00 休館日 月曜日(祝休日の場合は翌平日)

入館料 無料